

利岡守さん

(軟式野球審判員)



どの試合でも集中せないかん

一塁への送球とほぼ同時に、バッターランナーが勢よくベースを踏んだ。「ヒズアウト！(He is out!)」。張りのある声とともに、利岡守さんの右手が力強く上がる。

軟式野球の審判員として、試合を陰で支え続けて46年。「審判でゲームの引き締めりが全然変わってくる」。選手とはまた違った面白さがあるという。

野球の審判はルールを知っていれば誰でもできる、わけではない。試合を円滑に進めるためには膨大な知識と技術、他の審判とのチームワークが必要で、審判員のマニュアルは本1冊分にもなる。

試合では、ボールと選手の動きを常に把握して立ち位置を移動し、一番見やすい角度で判定を行う。他の塁審が外野への打球を追ったとき、空いた塁をカバーするようにポジションを変えるフォーメーションも、長年の研鑽に裏打ちされた動きだ。

利岡さんは消防署に勤務しつつ、社会人野球で腕を鳴らした。30歳で選手を引退した後、県軟式野球連盟の理事長

から「やってみるか」と声をかけられ、審判員の世界に入る。「最初は全然分からなくて、しんどいなと思いつたけど。もう勉強勉強、始めたら楽しかった」

休日には県外の講習会にたびたび赴き、一流の審判員から指導を受けた。教わった言葉は細かくメモに残した。「基本が大事、基本だけをやれ」「プレーは予測してもいいが、ジャッジは予測してはいけない」…。59歳の時には本場アメリカのアンパイア(審判)スクールで10日間学んだ。

国体や県内外の試合で審判を務め、後進の育成にも尽力してきた利岡さん。功労者として、全日本軟式野球連盟と高知県から表彰された。県内では審判員のなり手が減っており、多くの人に興味を持ってもらいたいという。

「大人の試合でも子どもの試合でも、点差が10対0で開いたち、おんなじように集中せないかん。集中が抜けたら態度に出る。何年やっても難しい」

最近はグラウンドに立つ機会は減ったものの、試合に向けるまなざしは変わらない。



こだわりの「技」できらりと光る四万十町の人々を紹介します。

町にはこんなwazaも

ちょいwaza!! 縄跳びが得意! 岡崎くみみさん くぼかわ保育所年長組

最近、縄跳びがみるみる上達し、20回くらい跳べるようになった。走り縄跳びも得意で、追いかけて大人に勝てるほど。次の目標「50回」に向けてマイペースに練習中だ。

三年坂 information



令和5年度(水)、令和5年度の総合的な学習の時間と地域課題研究での学習の成果を発表する「夢・志発表会」が四万十会館で開催され、各学年が下記のように多彩なテーマで1年間の取組成果について報告しました。

発表内容	
1年	総合的な探究の時間1年間の取り組み
2年	小さな学校が地域と協力してつくる大きな文化祭
3年	地域の課題はみんなの課題～1年間の取り組み報告～ 進路決定に至るまでの道のり

令和5年度 夢・志発表会

令和5年度 卒業式

令和6年3月1日(金)、令和5年度卒業式が厳かに挙行され、3年生24名がそれぞれの思いを胸に新たな道へと旅立ちました。在校生一同、先輩方のこれからの活躍を祈っています。

答辞

竹中 楓

例年になく暖かな日が続いた冬を越え、気づけば春の穏やかな風を感じる季節となりました。本日は私たち二十四名のために、このように心温まる卒業式を挙行していただきましたことに、卒業生を代表して深く御礼申し上げます。中略

ひとりの自信へと繋がりました。それは私自身も例外ではありません。入学前はできなかった前に立つなど目立つことが嫌だったにも関わらず、今、答辞を読んでいることは信じがたいことであり、自身の成長であると考えています。そして、今年度の文化祭(中略)、三年生は不思議の国のアリスをモチーフにしたカフェをしました。高校最後の文化祭、おそろいのパーカーや買い出し、衣装作り、装飾など先生方の協力のもと、自分たちで準備したことは何となく取っでも思いつくと言います。その中、私たちが一番驚いたことは、クラスの中の一人ひとりが、自分自身で何かを一杯やっていたこと。絵を描くのが得意、小道具が得意、それまでの約二年半一緒に過ごしてきた思い出が、自分自身で見つかることができました。そして、それが重なり合うことによって、一人が考えたことを作り上げることで、意図したことを活かして貢献しようとするこのクラスは素晴らしいと再認識しました。中略

最後にになりましたが、これまで私たちが支えて下さった全ての方に改めて御礼を申し上げますと共に、窪川高等学校の益々の発展を祈念して答辞とさせていただきます。

詳しくは
窪川高校
公式HPへ
窪川高校HP



#地域で挑戦する、高校生たち



高校の卒業式の日に合わせて、「じゅうく。」卒業式を開催しました。後輩たちに熱いエールを残し、それぞれの道へ進んでいきました。これからも応援しています！

【お問い合わせ先】 町営塾「じゅうく。」 050-5482-3339
人材育成推進センター 22-3163